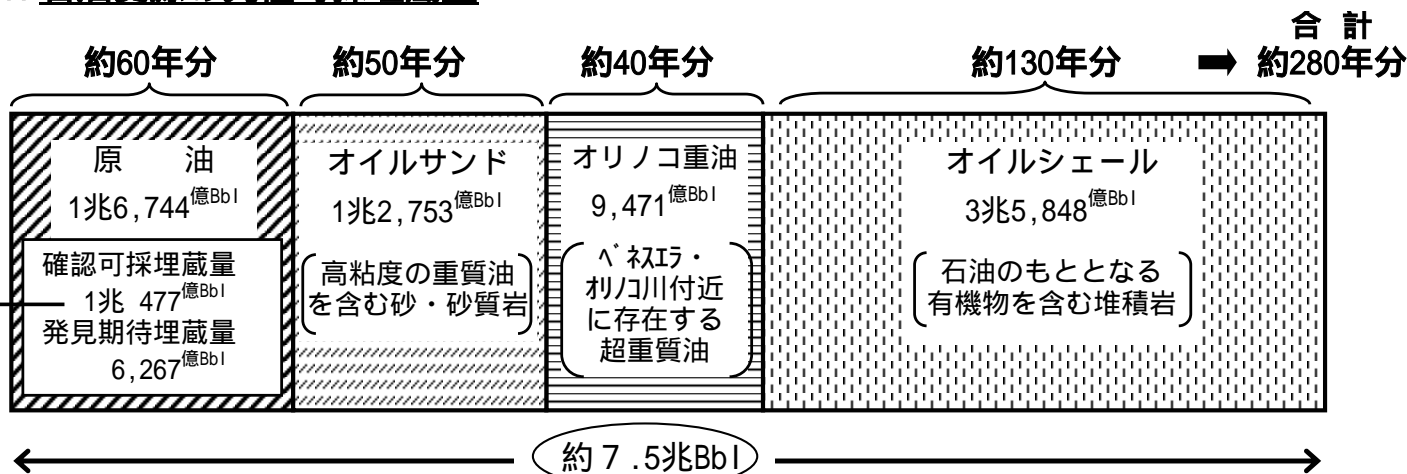


石油の埋蔵量について

1. 現行の採掘技術のもと、経済的にも採掘可能な石油の埋蔵量(=確認可採埋蔵量)をベースとした可採年数は、過去、約30年と言われてきたが、**開発技術の発達により、近年の確認可採埋蔵量は、むしろ増加しており、可採年数は40年を超えている。**
2. また、**今後の新たな油田の発見**や**採掘技術の更なる進歩による推定増加分を含めた埋蔵量は、約60年分になる。**
3. 更に、**オイルサンドやオイルシェール等の類似資源は豊富に存在する。**

水平掘削技術
(井戸1本あたりの原油生産増)
三次元地震探査システム
測位システムの発達
(人工衛星と地上電波を複合)
大水深海洋石油開発システム など

1. 石油資源の究極可採埋蔵量



(出所) B P 統計、第16回世界石油会議資料、国連訓練調査研究所資料、石油公団資料等

2. 原油の確認可採埋蔵量の推移

年	確認可採埋蔵量 ^(*) (CY年末ベース) 億バレル	原油生産量 (70億バレル等除き) 百万BD 億バレル/年	可採年数 (R/P) 年
1970 (昭和45年)	6,110	44.9	37.3
1980 (昭和55年)	6,550	62.6	29.8
1990 (平成2年)	10,090	63.7	43.4
2000 (平成12年)	10,462	74.5	39.9
2002 (平成14年)	10,477 (1,670億kl)	73.9 (43億kl/年)	40.6

(出所) B P 統計